

株式会社 IWAMOTO

ウィズコロナ!エネルギー分野を包括した革新的点検サービスの新展開



会社紹介 ◆

遠隔操作で作業スタッフの安全も確保

座学・実技とトレーニングも自社完結



点検業務はドローンのパイロットとナビゲーターの最小2名から推奨しています。画像解析はテレワークも可能。ウィズコロナに適応した職場環境を提供することができます。もちろん危険な山岳地帯など、作業員の安全も確保。国産ドローンの正規代理店として、販売の売り上げも伸びています。お客様は北海道から沖縄まで日本全国。ドローン購入後のトレーニングも自社設備内で完結。座学・実技と併設の専用教室を設けています。

株式会社IWAMOTO

代表者：代表取締役社長 岩本勉
設立：大正7年7月創業
資本金：4000万円
従業員：130名
業種：石油・ガスの卸・小売業、自動車関連事業、港湾荷役業、ドローン関連事業、ベットライフ事業、コインランドリー事業

補助事業 ◆

チャレンジ!新たな再生可能エネルギー分野へ参入 高性能ドローンを活用した無人航空機事業を発足

令和5年10月に社名を岩本石油から「株式会社IWAMOTO」に変更。現在、石油やガスを中心としたエネルギーサポート分野、車検および自動車保険などのカーライフサポート分野、ペットサロンや生命保険、フィットネス等のライフサポート分野、そして輸送や管工事のビジネスサポート分野と、4つの分野を通じて地域社会とともに、人々の暮らしの安全と安心をサポート。常識や価値観の多様化が進む現代において、幅広い思考とチャレンジ精神でビジネスを意欲的に展開している。

その中の一つが、令和3年に新設された「無人航空機事業」だ。国産メーカーであるACSL社の正規代理店として、その機体と関連機器を販売。さらに太陽光パネルや風力発電のほか、高速道路や橋などのインフラ設備に向けて、自社保有のドローンを活用した保守点検等のソリューションを提案している。それは、

既存の主力事業である化石燃料を中心とした石油事業、ガス事業と合わせた、新たな再生可能エネルギー分野への参入。無人航空機であるドローンを使った「供給・点検・メンテナンス」をワンストップで行うことでの、企業としてのさらなる成長を図るとともに、新事業を通じた地域への貢献と安定的な雇用へとつなげていく「高付加価値サービス」の提供がスタートした。

その足掛かりとなったのが、同補助事業を活用した最新型ドローンの導入である。従来手作業で行なっていた点検サービスの技術課題の解決に加え、プロセスの改善を通じて、市場が求める高い要求にも対応。高精度赤外線・可視カメラ搭載ドローンによる保守点検サービスが可能になった。また、社会問題にもなっている少子高齢化を背景とした人口減少による人手不足。この労働力を補う新たな一手としても期待が寄せられている。

成 果 ◆

自治体からの緊急依頼にも迅速に対応 時間・人手・コストを削減する保守点検

導入機種は、国産ドローンACSL社製「ACSL-PF2」と、高解像度赤外線・デジタルカメラFLIR社製「FLIRDuoTMRProP」。導入とほぼ同時期に、水道インフラであった和歌山市の水管橋の崩落があり、自治体からの初依頼として同機が活躍。危険な高所であっても足場や作業車を必要とせず、高精度なデータ画像の提供や点検時間の短縮に大きく貢献した事例の一つだ。さらに同機においては、赤外線カメラを用いて目に見ることができないホットスポット（異常発熱）を見つけることも可能。最高解像度は640×512。広範囲で俯瞰的な撮影ができるため、近接撮影が不要となり接触事故も減少。より最適で安全なフライトを実現している。また驚異的な成果としては作業時間の短縮。例えば従来2週間かかる太陽光パネルの点検においては、最短4日で報告書まで完結。時間・人手・コストを大幅に削減する。



今後の展開 ◆

国産ドローンでセキュリティー対策 「再エネ先進県」の政策にも貢献

同社の主力であるエネルギー分野との親和性が高く、今回の補助事業によりエネルギーのトータルサポート（供給・点検・メンテナンス）が可能となった。現在、市場の伸びがもっとも期待される再生可能エネルギー分野への参入である。中でも和歌山県は、長期総合計画で「再エネ先進県」を目指しており今後、洋上風力発電事業にも力を入れていくとのこと。事前に洋上風力発電の点検業務を開始することで、県の政策にも貢献できる見通しだ。また民間企業、官公庁・自治体と全ての顧客に対してセキュリティ一面も万全に。国産ドローンに特化していく。

